

令和2年度 生活・自立支援キャンプ
「そに どきどきキャンプ」

1. ねらい

豊かな自然の中での様々な体験を通して、健やかな心と体を育成し、自立する力を身に付けることをめざす。

2. 実施日

11月14日(土)、11月15日(日) 日帰り

3. 対象者(参加施設)

羽曳野荘(大阪府)

4. 参加者 / 募集定員

14日(土) 8人 / 20人

15日(日) 12人 / 20人

[幼児5人 小学生15人]

5. プログラム(要約)

本事業は、大阪府の児童養護施設に入所する幼児・児童を対象に実施した。高原のすすきが見頃を迎える中、森遊びや焚火体験、高原散策など、様々な自然体験活動を通して、健やかな心と体を育成し、自立する力を身に付けさせることをめざしたプログラム構成にした。

6. スケジュール

11月14日(土)、15日(日)

- ・開会式
- ・焚火体験
- ・森遊び
- ・選択プログラム
(亀山登山 フィールドアスレチック)
- ・焼き芋作り
- ・閉会式



7. 活動内容 [11月14日(土)、15日(日)]

○午前

開会式後、焚火体験と焼き芋作りをおこなった。子どもたちは、焚火する際のポイントやルールを集中して聞いた後、熱心に取り組んでいた。特に焚火体験では「薪割り、薪組、着火」、この一連の活動に没頭していた。次に森遊びを行った。午前中は、焚火や丸太切り、スラックライン、散歩等「自分がしてみたい」と思う活動に取り組んだ。



○午後

昼食後は見ごろを迎えている曾爾高原のススキを全員で見学した後、選択プログラムとして亀山登山とフィールドアスレチックの2つに分かれ「自分がしてみたい」活動に取り組んだ。



8. まとめ

「自分がやってみたいことを思いっきりやってみる」そんな時間と場所を提供したいと思い本事業を企画した。開会式では緊張していた子どもたち。プログラムがスタートすると、自分がしたいことを思いっきりできることに気付き笑顔を見せるようになってきた。施設の職員の方々からは「森の中で伸び伸びと行動できていた」や「子どもの意欲ある姿勢やあきらめずに取り組む姿などを見ることができ、嬉しい気持ちになった」という感想があった。

子どもたちは、自然の中で主体的に伸び伸びと活動することができていた。普段なかなかできない体験をたくさんすることができ、満足気な様子であった。今後も子どもたちが主体的に活動できる場を提供していきたい。(企画指導専門職 森本 貴仁)

令和2年度 生活・自立支援キャンプ 「曾爾わくわくキャンプ」



曾爾わくわくキャンプ（趣旨）

豊かな自然の中での様々な体験や冒険的プログラムに挑戦してたくましい心と体を育成し、参加者間の交流を深めるとともに、集団生活の中で規則正しい生活習慣を身につける。

1. ねらい

晩秋の曾爾高原を舞台に豊かな自然の中で、様々な体験を通して、大自然の素晴らしさに気づき、参加者間の交流を深めるとともに、集団生活の中で規則正しい生活習慣を身につける。

- あいさつをしよう
- いろんなことにチャレンジしよう
- よく寝て、よく食べよう

2. 実施日

11月21日（土）～11月22日（日）1泊2日

3. 対象者（参加施設）

みどり自由学園（三重県）

4. 参加者 / 募集定員

17人 / 30人

- 小学生12人（1年生3人、3年生2人、4年生3人、5年生2人、6年生2人）
- 中学生4人（1年生2人、2年生1人、3年生1人）
- 高校生1人（1年生）

5. プログラム（要約）

本事業は、津市の児童養護施設に入所する児童・生徒を対象に、高原のすすきが見頃を迎える「秋」の自然の中、フィールドアスレチックや野外炊事など、様々な自然体験活動を行うとともに、施設とは異なる環境の中での集団活動を通じて、規則正しい生活習慣を身につけるプログラムを実施した。

また、プログラム・事業全体を通して、異年齢間の交流が増えるように場の設定を工夫し、仲間作りやコミュニケーションの充実を図るとともに、達成感や自己肯定感を養うプログラム構成とした。

スケジュール

11月21日（土）

- ・開会式
- ・選択プログラム（フィールドアスレチック、亀山ハイキング）
- ・わくわくタイム
（ナイトハイク、バドミントン、卓球、ドッジボール）

11月22日（日）

- ・野外炊事
- ・ふりかえり
- ・閉会式

【1日目】

開会式後、屋外での活動を実施した。子どもたちは、施設での事前オリエンテーションで紹介された活動の中からフィールドアスレチックを選択し、全てのステージに果敢に挑戦することができた。活動中、小学生は中・高校生に、中・高校生は施設の職員に助けをもらいながら協力して取り組み、優しく声をかける様子も多く見られた。次に、全員で山登りに挑戦した。フィールドアスレチックで汗を一杯かきながら走り回った後とは思えない程すいすいと歩みを進める子どもたち。亀山峠に到着し、太陽の光に照らされ金色に輝くすすきが広がる雄大な景色を目の当たりにした子どもたちからは感嘆の声が上がっていた。

夜は、「わくわくタイム」として選択プログラムを実施した。初めに、希望の多かったナイトハイクに出かけた。途中、天体望遠鏡で月の表面や土星の輪を見ることができた。ナイトハイク後、プレイホールで曾爾の職員や施設の職員を含む全員でドッジボールを行った。



【2日目】

野外炊事でちゃんこ鍋作りをした。班で役割を分担し、薪割りをしたり野菜を切ったりするなど、みんなで協力しながら調理をした。活動の中で、高校生や中学生が中心になって安全に活動できるように小さい子に声をかけながら率先して取り組む姿が多くみられた。また、煮込んでいる間に、火起こし体験や焼マシュマロ作りを行い、楽しむことができた。



6. まとめ

コロナ禍で、さまざまな活動が制限される中、子どもたちに多くの体験をさせたいという施設の方の強い思いから、実施に至った今回のキャンプでは、子どもたちの「やってみたい!」という思いを大切にしながら活動を進め、元気いっぱい取り組むことができた。子どもたちは、自然の中で約束を守っていきいきと活動することができ、年長の子を中心に相談しながらより良い方法を考えて活動することもできた。また、普段なかなかできない自然の中での活動が、施設で見せるいつもとは違う子どもたちの新たな一面を発見することができる良い機会となった。

（主任企画指導専門職 曾和 良友）